

お茶のみサロンで 高齢者に元気と安心を。

長野教会 田村恭子さん

田村恭子さんは、長野市の市営団地の集会所で月に一度、高齢者サロン「ひなたぼっこ会」を開いている。13年前のスタート当初は、数人が参加するお茶のみサロンだったが、田村さんの地道な活動が実を結び、いまでは毎回30人近くが集うほどに。サロンでは、カラオケ大会やミニ英会話教室のほか、警察署員による高齢者向けの防犯講演も実施されている。昨今、高齢者を狙った振り込め詐欺や孤独死が社会問題として注目を集めるなか、手作りの料理を囲みながら世間話に花を咲かせる笑顔いっぱいの楽しいひとときは、まさに高齢者の方々に寄り添い、ともに歩んでいると実感できる空間となっている。田村さんのこの活動は、孤立せず安心して暮らせる環境づくりの一助となっている。



心に寄り添い、 ともに歩む

困っている人がいると、私たちは「なんとかしてあげたい」と、可能な範囲で手を差し伸べたいと思うのです。それは、だれもがもつ思いやりの心、あるいは布施や利他の心によるのですが、見方を変えようと、そうした行ないは「生かされていることへの恩返し」ともいえるのです。

人さまに何かしてあげようと思うと、私たちはつい気負うことがあります。そのため、何もできないなどと落ち込むことがあります。ご恩返しであれば、落ち込むこともなく、ただささやかな当たり前のことをさせていただけでいいのです。そもそも私たちは、みな、大いなる一つのいのちとして生かされている兄弟姉妹です。そこに本来、自他の区別はなく、その意味では、すでにみな「ともに歩んでいる」のです。

立正佼成会